

医療安全への取り組み

FRONT ESSAY FRONT ESSAY

●2年連続優秀賞を授賞して

医療安全管理委員会より、昨年と今年と2年連続でSAシート入力の優秀賞をいただきました。

SAシート入力というと、自分が失敗したことを記載するというマイナスイメージがありました。なかなか入力数が増えないのも、そういったイメージがあるからだと思えます。

私自身がレポートを初めて入力したのは入職して1年目でした。術後1日目の患者さんが、鎮痛のために腰に入れていた硬膜外チューブを抜いていたのを発見したことでした。背中のチューブを固定するために貼っていたテープが痒かったので、掻いていたらチューブが抜けてしまいました。抜けるはずがないと思っていたチューブが抜けてしまったことと、患者さんが「チューブが切れた」と言ったことに対して、ただただ驚いたのを覚えています。

2年目のときからは看護部感染・安全対策委員のメンバーになり、自部署で起こった出来事の報告をするようになり、何故インシデントやアクシデントが起きたのか、どうすれば未然に防ぐことができるようになるのかを考えるようになりました。

日々の仕事の中でヒヤッとすることや、ハッとすることのような経験は皆さんにあると思います。私達の仕事は、直接患者さんに影響を与えてしまうことがたくさんあ

2009 No.2
島田病院医療安全管理委員会が送る
患者さまと職員の安全に関するニュース

●●
FRONT ESSAY
レポート報告の優秀者の声

ります。そういったことをひとつでも減らすためにSAシートを入力し、どんなことがあったかを知ってもらい、どこに原因があるかを明確にすることが大切であると委員会活動を通して学びました。

他のスタッフが同じ失敗をしないよう、情報を共有するという意識の向上も大切です。また、委員会の活動として、KYT（危険予知）トレーニングを部署内で実施して、なにが危ないのかを学べるようにも努めています。

忙しい毎日を送っているとミスは起こります。ですが、自分自身がミスをして入力すると思うとなかなか率先して入力したくないと思うかもしれません。他の人が同じことを繰り返さないためにと考えてレポートを入力してくれる人が増えると嬉しいです。そんな風に考えながら今後もレポート入力を続けていき、看護部全体の報告件数が増え、より安全で安心できる看護が提供していけたらいいと思っています。

看護部 2階病棟・手術室 大西泰世

●最近の取り組み例の紹介

・薬剤に関する安全対策の一例

薬剤課の協力の下、同時使用が禁忌の薬剤に対しての注意喚起の表示を実施しました。

術後の鎮痛処置に第一選択として使用する機会の多い注射薬のアンフルケースに、同時使用しない薬品名を黄色で明記しカバーをしました。また、アンフルが入っている袋にも同じ表示を施し、看護師が使用する際に立ち止まり確認するように工夫していただいています。これを実施後、間違いは起こっていません。



注：定数薬品のアンフルケース内に半透明の蓋を作り、赤枠と同時使用薬品禁の薬剤名を明記しています。

現場での話し合いを迅速に行い、行動していただいている薬剤課の皆さんに感謝しています。これからもよろしくお願いします。

看護部一同

●新型インフルエンザ情 Q&A

Q・新型インフルエンザウイルスとは

A 現在、ヒトの間で流行している A ソ連型ウイルス(H1N1)および A 香港型ウイルス(H3N2)以外で、効率よくヒト-ヒト感染するインフルエンザウイルスを新型と言います。

Q・季節性インフルエンザとの違いは？

A 伝播させる経路や方法は、同じであり、感染力も季節性インフルエンザと同様に強いが、多くの患者は軽症のまま回復しているにも関わらず、一方では、インフルエンザのハイリスクグループや健康な若年層の重症化も報告され、二極型を示します。

・Q マスクは感染を防ぐのに有効か？

A 患者（咳をする人）からの飛沫は、サージカルマスクで防御ができますので、患者自身が着用する意義は高いと思います。

また、患者が咳をしたとき、大小様々な飛沫が発生し2～3秒間空中を浮遊し、その間に水分が蒸発します。そのため、1m以内に近接患者が咳をした場合に、飛沫の水分が蒸発する数秒間に限り、健常者が着用するサージカルマスクでの感染予防策が期待できます。

CDCは、【健康な人がサージカルマスク着用でインフルエンザの感染の危険性を減らすというエビデンスはない】【人混みを避ける事が予防策として良いが、65歳以上、妊婦、免疫不全者などがあえて人混みに行く場合には、サージカルマスクの着用を推奨する】【マスクの着用が最良の感染予防ではなく、手指衛生などとの対策を組み合わせる必要がある】と勧告を出しました。



医療安全管理室 森下幸子

●医療安全に関連する学会のお知らせ

・日本医療福祉設備学会 HOSPEX2009

医療と介護・福祉の調和を目指して

会期：2,009年11月11日（水）-12日（木）

会場：東京ビッグサイト

会長：大久保 憲

<http://www.jma.or.jp/hospex>

『安全と効率を考えた病院設計や設備の新しい情報が収集できます』

・医療の質・安全学会

医療安全学の構築に向けて

—実践から「DOのサイエンス」を—

会期：2009年11月21日（土）-23日（月）

会場：東京ビッグサイト

会長：武田 裕

<http://qsh.jp/>

『職種、立場を超えた医療安全の学会です』

プランナー：看護部 国本

次号は 1月です！

発行人 医療安全管理委員会 編集担当 森下 幸子

発行所 医療法人永広会島田病院内